# TICADプロセスの歴史と昨今の発展

# TICAD とは?

TICAD とは?

Tokyo International Conference on African Development (アフリカ開発における東京国際会議)

実質は、日アフリカ・サミット

招待されるのは、アフリカ諸国の国家元首及び政府の長

# TICADの歴史 (時期と開催場所)

#### これまで計7回開催

TICAD

TICAD 8

TICAD	1993年 (東京)	5年ごとに日
TICAD II	1998年(東京)	本で開催
TICAD III	2003年(東京)	
TICAD IV	2008年(横浜)	
TICAD V	2013年(横浜)	
TICAD VI	2016年 (ケニア・ナイロビ) [	
TICAD 7	9010年 (烘浜)	アフリカで開催

(横浜)

2022年 (チュニジア・チュニス) (予定)

2019年

# TICADの歴史 (規模等)

# TICAD I 1993年

<u>アフリカより5名</u>の元首(ボツワナ、ガーナ、ウガンダ、ブルキナ・ファン、ベナン)が参加。

## TICAD II 1998年

80ヶ国、40国際機関、NG022団体が参加(内、<u>元首・首脳15名</u>)。

# TICAD III 2003年

89ヶ国及び47機関から、**24名のアフリカの元首・首脳** (コナレ AU委員長(前マリ大統領)を含む)

# TICADの歴史 (規模等)

## TICAD IV 2008年

41名の国家元首・首脳級 (ジャン・ピンAU委員長を含む) を含むアフリカ51カ国、34カ国の開発パートナー諸国及びアジア諸国、74の国際機関及び地域機関の代表並びに民間セクターやNGO等市民社会の代表等3000名以上が参加。

## TICAD V 2013年

39名の国家元首・首脳級を含むアフリカ51カ国、31カ国の開発パートナー諸国及びアジア諸国、72の国際機関及び地域機関の代表並びに民間セクターやNGO等市民社会の代表等、約4,500名以上が参加。

# TICADの歴史 (規模等)

## TICAD VI 2016年

アフリカ53か国、開発パートナー諸国及びアジア諸国、国際機関及び地域機関の代表並びに民間セクターやNGO等市民社会の代表等、約11,000名以上(会場内のサイドイベント含む)が参加。

## TICAD VII 2019年

42名の首脳級を含むアフリカ53か国、52か国の開発パートナー諸国、108の国際機関及び地域機関の代表並びに民間セクターやNGO等市民社会の代表等、10,000名以上の参加

# TICADの特徴

## 共催の形を取る。

- ・共催者は、国連、国際連合開発計画(UNDP)、世界銀行及びアフリカ連合委員会(AUC)、国際機関ドナー諸国等。
- ・FOCAC(中国・アフリカ協力フォーラム)、フランス・アフリカ・サミット等と異なる)。

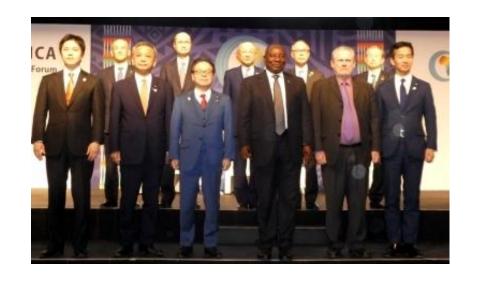
## マラソン会談

・全体会合と並行して、首相、外相は訪問した要人とマラソン会談を行う。

## TICADサミット以外にも様々な会合等が行われる。

- ・ほぼ一年おきに閣僚会合(日本かアフリカ)が行われる。
- ・日アフリカ官民経済フォーラム
- ·TICAD7官民円卓会議
- ・野口英世アフリカ賞

#### 日アフリカ官民経済フォーラム



アフリカビジネス協議会第1回会合





#### 野口英世アフリカ賞



# TICADプロセス開始の動機

## 外務省の公式な見解

国際社会アフリカへの関心が一時低下したまさにその時期<u>(援助疲れ)</u>、日本は世界の関心をアフリカに呼び戻すことを目的に、アフリカ開発会議 (TICAD) プロセスを開始した。

## 実際は?

# 経済力を国際社会におけるプレゼンス拡大につなげる狙い。

- ODAをプレゼンス拡大につなげる。
- ・安保理改革やその他の国際選挙。アフリカは、54か国を有する大票田。
- 日本に国際貢献を求める圧力をかわす狙い。
- ・湾岸戦争の反省。

## 天然資源?

# 安保理改革と国連憲章

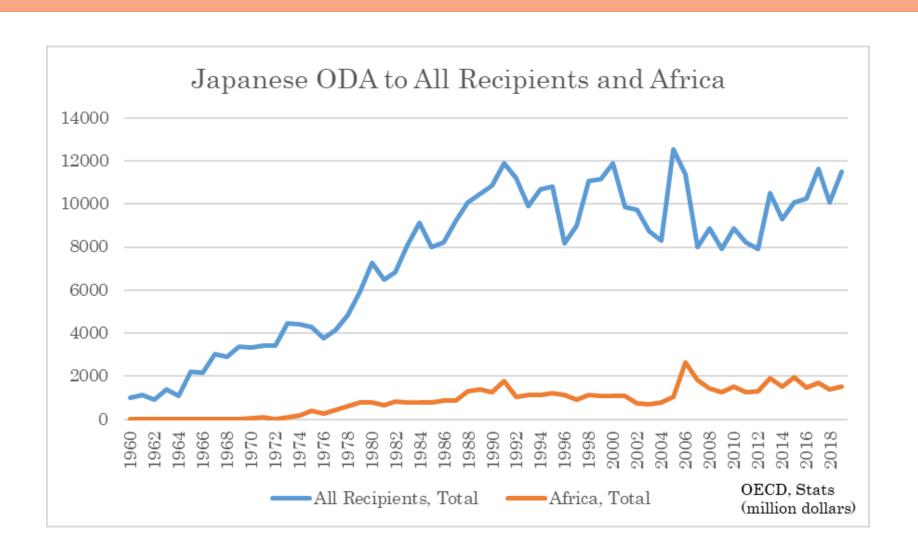
#### 第23条

1. 安全保障理事会は、15の国際連合加盟国で構成する。中華民国、フランス、ソヴィエト社会主義共和国連邦、グレート・ブリテン及び北部アイルランド連合王国及びアメリカ合衆国は、安全保障理事会の常任理事国となる。

### 第108条

この憲章の改正は、**総会の構成国の3分の2の多数で採択され、且つ、安全保障理事会のすべての常任理事国を含む国際連合加盟国の3分の2**によって各自の憲法上の手続に従って批准された時に、すべての国際連合加盟国に対して効力を生ずる。

# 日本の対アフリカODA額の推移



# 日本のアフリカにおけるプレゼンスの低下

・<u>主要ドナー(米、英、仏、独</u> 等)のアフリカ回帰。

米は、**9.11連続テロ**が大きな要因。

欧州各国は、**移民圧力**を緩和することを 模索。

	2017年の対アフリカ援助			
1	米国	11 190	21%	
2	EU	6 851	13%	
3	IDA(国際開発協会)	6 326	12%	
4	英国	3 858	7%	
5	ドイツ	3 691	7%	
6	グローバルファンド	3 059	6%	
7	アフリカ開発銀行	2 547	5%	
8	フランス	2 362	4%	
9	日本	1 674	3%	
1 0	カナダ	1 140	2%	
1 1	その他	10 103	19%	
	合計	52 800	100%	

ソース: OECD 単位: 100万ドル

# 中国の台頭

- ・OECD・DAC(開発援助委員会)していないため、<u>正確な援助額を把</u> <u>握することは困難。</u>
- ・JICAの推計によれば、2017の対アフリカ援助額は、<u>英、独に次ぐ</u> 規模。
- ・OEDC・DACに所属していないため、譲許的融資に関する条件に縛られず、**高利の融資を行うことができる。**
- ・2000 年FOCAC (中国・アフリカ協力フォーラム)設立。3年ごとに中国とアフリカでサミットを開催。(インド、ロシア等の新興国も類似のサミットを開催している)

# FOCAC(中国・アフリカ協力フォーラム)



# 2018年中非合作论坛北京峰会

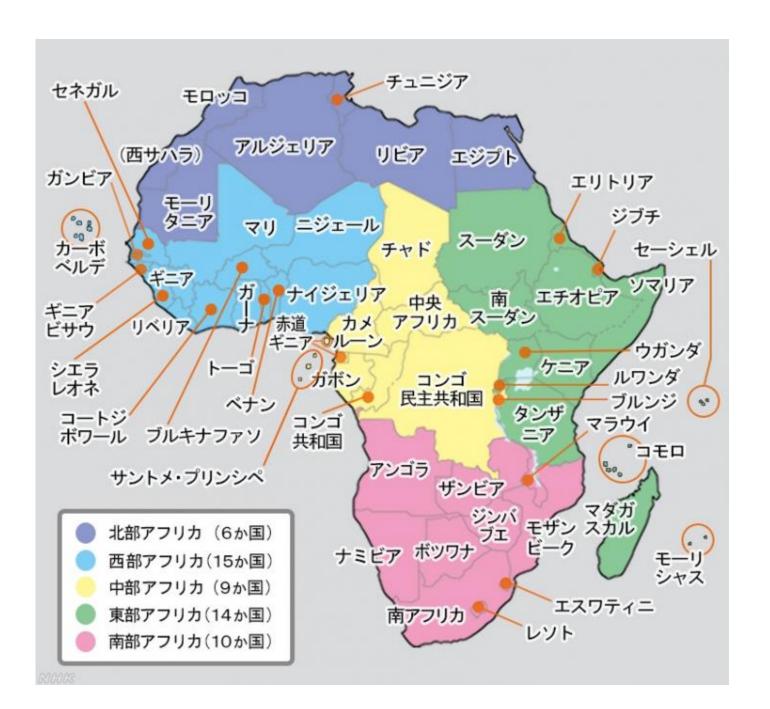
The 2018 Beijing Summit of the Forum on China-Africa Cooperation Sommet de Beijing 2018 du Forum sur la Coopération Sino-Africaine

3-4 September 2018

2018年9月3-4日

3-4 Septembre 2018





(NHK)

# TICADの近年の傾向

・ビジネス重視

第1回日本アフリカビジネスフォーラム(2014年東京) 第2回日本アフリカビジネスフォーラム(2017年東京) 日アフリカ官民経済フォーラム(2018年ヨハネスブルグ)等

・成長著しいアフリカ 2013~17年のGDP成長率は1.7~3.6%の間で推移(Jetro調べ) ルワンダやエチオピア等非資源国で高い成長率を記録。

# TICADの近年の傾向

• 開発会議から外交フォーラムへ

# FOIPの強調

2016年にケニアで開催されたTICADVの基調講演で、安倍総理(当時)が「自由で開かれたインド太平洋」(FOIP: Free and Open Indo-Pacific)を対外発表した。

# TICADの課題

- 中国・アフリカ協力フォーラム等類似の会議が乱立する中でどのように存在感を維持するのか?
- ・安保理改革に見込みはあるのか?
- 日本企業のアフリカへの進出や投資は増加するのか?
- そもそも日本は、アフリカにおいても強い影響力を持つグロー バルパワーなのか?